

早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術

諸外国では早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術は低侵襲性と根治性を持ち合わせた治療手段として普及してきているが、本邦ではごく限られた施設でのみ行われている。今回の研究は、早期子宮頸癌の症例に対して従来行っている開腹による広汎子宮全摘術、両側付属器摘出術を腹腔鏡下で行い、その実用性、安全性、有効性、予後を評価することを目的するものである。2013年から我々が臨床研究として行ってきた腹腔鏡下広汎子宮全摘術は2014.12月厚生労働省に先進医療として認定を受けたため、当院で先進医療として本術式を行うことが可能になりました。

研究責任者: 角田守

婦人科腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検についての研究

婦人科癌根治術に際し、センチネルリンパ節(腫瘍細胞が原発巣からリンパ管を通り最初に転移の成立するリンパ節)を蛍光色素である Indocyanine green (ICG)をトレーサーとして使用し、さらに近赤外光を励起光として使用して蛍光体を検出生検することにより検出感度の向上を図りその結果系統的リンパ節廓清が省略できるかを検討することを目的とする。

研究責任者: 角田守

子宮体癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清を含む腹腔鏡下根治術

傍大動脈リンパ節郭清を要する早期子宮体癌の症例に対して、傍大動脈リンパ節郭清を含む腹腔鏡下子宮体癌根治術を行うことを目的とする。

研究責任者: 角田守

早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術

腹式の広汎子宮頸部摘出術を必要とする早期子宮頸癌の症例に対して従来行っている開腹による広汎子宮頸部摘出術を腹腔鏡下で行い、その実用性、安全性、有効性、予後を評価することを目的とする。

研究責任者: 角田守

大阪大学および関連病院産婦人科における臨床データベースを用いた、腹腔鏡下手術周術期管理に関する研究

1. 研究の対象

2017年01月～2025年12月に大阪大学産婦人科関連病院で腹腔鏡下手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

研究機期間: 研究機関の長の許可日～2025年12月31日

術前術後における適切な抗菌薬投与、術前浣腸や下剤使用、絶飲食期間を検討するために、患者さんや手術の情報を統計学的に解析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報:手術時年齢、身長、体重、病歴、手術術式、合併症等の発生状況 等
個人が特定されないよう匿名化したうえで研究を行います。

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

【共同研究機関】

市立芦屋病院

【既存試料・情報の提供のみを行う機関】

大阪急性期・総合医療センター、堺市立総合医療センター、市立貝塚病院、大阪労災病院、兵庫県立西宮病院、箕面市立病院、市立豊中病院、ベルランド総合病院、市立伊丹病院

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら当科までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究代表者: 大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 教授 木村 正

研究責任者: 大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 助教 角田 守